

お知らせ

記者発表資料 平成17年 9月 7日

提供先

島根県県政記者会、鳥取県県政記者クラブ、米子市政記者クラブ

水質事故に関する情報提供【第1報】

状 況	2005年9月7日 16:00 現在 7日 14:10 頃 国土交通省の河川パトより、米子市彦名町地先の中海においてハゼ等の斃死（約1,200匹）を確認した。 7日 15:00 から国土交通省委託業者等により現地での回収作業をおこなったが、風の影響でへい死魚（ハゼ等）が沖に流され始めたため、回収は250匹に止まった。
事故の種類	ハゼ等の斃死（約1,200匹）
発生確認時刻	平成17年9月7日（水）14:10 頃（発見）
発生場所	米子市彦名町地先（別紙）
発生原因	別紙のとおり
原因物質及び量	別紙のとおり
周辺への影響	ハゼの斃死（約1,000匹）
今後の対応	引き続き他の箇所において国土交通省により回収作業を行う。

斐伊川水系水質汚濁防止連絡協議会

問い合わせ先

国土交通省 出雲河川事務所 水環境課

TEL：0853-21-1850

水環境課長 湯浅（ゆあさ） 水環境係長 藤原（ふじはら）



発生原因

- ・ ハゼなどの湖底に生息する魚類のみのへい死から、毒物による影響ではないと考えられます。
- ・ へい死魚が浮いていることから、発見直前に死んだものではないものと考えられます。
- ・ 9月5日午前 7:00 から台風14号の影響で中海周辺は、風速 10m/s 前後の東風が9月6日午後 11:00 まで、1日以上断続して吹いており、中海下層の硫化水素を含む貧酸素水が湖底から米子湾沿岸の浅瀬へ移動することにより、湖底に生息しているハゼ等が大量に斃死したのだと考えられます。

なお、国土交通省の中海湖心観測所における風向・風速と米子湾水質自動観測所における溶存酸素量(DO)のデータでも、東風が卓越している期間中の米子湾水質自動観測所の底層(湖底上 0.3m)と下層(湖底上 1.0m)の溶存酸素量(DO)値が常に 3mg/l を下回り、一時的には 0mg/l となることが確認されています。

※魚類のへい死が米子湾周辺でしか確認されていないこと(中海西岸では魚類のへい死は確認できない→国土交通省のパトロールにより確認済み)から赤潮による影響ではないと判断しています。

